

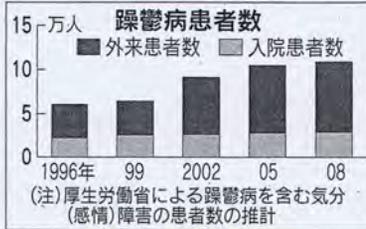
2012年(平成24年)4月4日(水曜日)



躁鬱病薬の成分 簡単測定キット

バイオベンチャーのAKJグローバルテクノロジー(千葉市、小出和弘社長)は、血液に溶け込んだ躁鬱(そううつ)病治療薬の微量な成分を、簡単に検出する測定キットを開発した。東日本大震災以降、心的外傷後ストレス障害(PTSD)の発症が増えた。治療薬は中毒症状が出ることもあり、血中濃度をこまめに測る必要があるため、簡単な測定キットの需要が伸びると判断した。

AKJグローバル
テクノロジー



キットを使い、血液中のリチウム濃度を測定する

血中濃度把握 投与量 調整しやすく

測定キットは血液中の微量なリチウムを検出できる。躁鬱病の治療に使う安定剤などはリチウムを含む。投与する量の調整が難しく、多すぎると吐き気や意識障害などの影響が出やすい。

リチウムに触れると発色する「キレート剤」と混ぜ合わせ、色の違いをみて濃度を測定する仕組みだ。これまではリチウムに反応する物質の安定性が低く保存が難しかったため、リチウム検査薬はなかなか実用化しなかった。

同社は独自の技術で反応物質を、水中に安定的に拡散することに成功した。

2013年度中にも研究用を発売する。医薬や生物学などの研究室や製薬会社の研究部門に売り込む。医療機関で体外診断薬として使うには薬事申請が必要のため、臨床用として販売するのは14年度以降となる見通し。1000~2000回利用

できる1キットの価格を6万円前後に設定する方針。「現行の検査価格より2~5割引き下げる」(高橋輝専務)のが目標。研究用は年間1000万円程度の売り上げを目指す。薬事申請して体外診断薬として認められれば、同検査薬市場でシェア25%を目指す。

同社の推計では、臨床用リチウム検査の市場規模はおよそ45億円。うち検査薬市場は22億円強の規模があるとみている。

AKJグローバルテクノロジーは10年5月に設立。岩手県に研究拠点を持つ。主力は血中や唾液

中の物質を検出する測定「ジェニックス」のブランド名で販売している。12年3月期の売上高は約1000万円。